

食健農法

農業法人 株式会社サン・グリーン出荷組合
黒木康司

人類の平和と繁栄は私たちの不断の努力によって実現されるものであり、その責任は全て私たち人類に帰するものである。この意味において、人間の生命に直接関わる食は、単に個々の生命を短期間維持するだけのものではなく、人類の社会福祉と健康を支えるべきものであり、現在から未来にわたって地球環境を蘇生に導く重要な役割を負っている。

現在の私たちの食料様式は、食料の本来提供することが期待される質を積極的に求めているとは言い難い。

そこで、農業生産物の質的な価値に対する責任を考え、食健農法を提唱します。

食健農法永続性

農業生産物に求められる本来の性質(人類の健康への安全保障性)を農業経営者が追求し消費者側は理解、支持することで、農業生産物作りに間接的・直接的に参加でき、農業経営者と消費者が一体化することにより、農業経営者の生活と消費者側の食の安全を保障することになり、現在から未来にわたり地球環境を蘇生に導くことができ社会に貢献できる方法である。

物資循環

作物や畜産を含めて多種多様な生物群が共存して相互に関係しあい、バランスを保っている。これらの生物群は、周囲の環境から養分などを吸収し、不要の産物を別の生物に利用されることにより養分元素の物資循環が成り立つ。自然や人間の力により、常に新たな安定状態に変動しやすいと認識して栽培計画を立て管理する。作物と土壌は相互依存関係にあり、片方の生長によって他方も生長する関係から、農産物の栽培を通じ地球環境を蘇生に導く事が出来る。

栽培に関する基本的考え方

土作り	有機物中心	土壌は、微生物等の活動により団粒化されることで、より空間が多くなり、気相の多い構造になる。よって保肥、保水性が増し、逆に水捌けが良くなり水分安定する。
		これらにより、有機物の窒素分はアミノ酸の形としてとどまる比率が高く、細根は水分、養分を求めて土壌に根を張り巡らすことができ、農産物の質に大きく影響します。

堆肥	高温発酵から乳酸発酵で終わった物
養分	N・P・K ボカリ肥料、高温発行から乳酸発酵で終わった物
	ミネラル・微量元素 海草・木炭・ゼオライト
水質検査	灌水用 酸化還元電位・PH・導電率・残留塩素・総硬度 過マンガン酸カリウム消費量・色度・濁度 カルシウム・マグネシウム・ナトリウム・カリウム

	鉄・マンガン
土壤 E C	簡易の E C 計にて測定
土壤水分	テンション計にて測定
作物の残留窒素	硝酸態窒素測定器
ハウス内管理	土作り中に太陽熱処理をする事で雑草の発芽を少なくする。穀殻を通路に敷く
除草	泥の付着 畝から水が滲みださない様に水の管理をする。 通路に穀殻を敷き詰め土と遮断する。
泥の付着	
収穫方法	人の手で摘む
収穫後保管	生産者各自で保管管理、常温
トマト等	冷蔵庫でオゾン殺菌後各農家、手作業にて
イチゴ	選別パック詰め
保管後出荷	冷蔵車にて作物に応じた温度管理で集荷
専用冷蔵車	
トレサビリティ	栽培・収穫量に対してトレサビリティ

パック加工センター

搬入	指定冷蔵庫にて保管、オゾン殺菌、酸素供給
加工	選果後、指定された容器に詰める。
保管	指定された温度で保管、オゾン殺菌、酸素の供給
搬出	冷蔵車にて指定温度で出荷
トレサビリティ	入荷から出荷までに対してトレサビリティ

衛生管理

コンセプト	農産物であるが、消費者が直接食する食品としての認識した管理をおこなう。
環境	外周り 何時も周りが汚れていない様に清掃と、整理整頓を徹底する。
屋内	農産物を食品として捉え、土足で出入り出来ない環境を作る。清掃の徹底と整理整頓を実行する。 責任者を決めて、始めと終わりのチェックをする。

手洗い場	鏡の設置、殺菌溶液の設置、整理整頓と清掃の徹底
作業場	清掃と、整理整頓の徹底
服 装	ネットの上から帽子をかぶる。 白衣を着用する。 白衣着用後二人一組とし、双方の前後にローラーをかける。 作業終了後、始めと同じ方法でローラーをかける。